



南小だより

鶴岡市立榎引南小学校
発行日 令和4年10月27日

りんご学習でつながる「絆」

10月に入り、りんご学習にかかわる活動や行事がたくさん行われています。

三連休明けの11日には、4年生と6年生が「千秋」の収穫作業を行いました。たわわに実ったりんごを枝から上手に取り、次々にコンテナに詰めていき、用意したコンテナもあっという間にいっぱいになりました。収穫したりんごは、横浜の青木小学校や地域の80歳以上の方へのプレゼントに使わせてもらいました。この日も、りんご学習を守る会や協力隊の皆さんから参加とご協力をいただきました。ありがとうございます。



翌12日には、地域の80歳以上の方々にプレゼントするための、りんごの袋詰め作業を3年生と4年生で行いました。ここ2年間はコロナの影響で中止していたので、3年ぶりの活動となります。お年寄りの方々の喜ぶ姿を思い浮かべながら、手紙を添えて用意させてもらったところです。各地域での配布には保護者の皆さまからもご協力をいただきまして本当にありがとうございます。

6年生からは、交流をしている横浜市立青木小学校へ送るりんごの選別と箱詰めの作業をしてもらいました。守る会の遠藤正之会長さんからお出でいただき、青木小学校との交流の意義やその思いなどについて聞かせていただきました。りんごを送ることを通して大事にしてきたことを、子ども達も感じてくれたのではないのでしょうか。箱の中には、6年生が作った手紙やパンフレットも一緒に詰めました。



三連休中の9日には、3年ぶりに横浜で神奈川区民祭が開催されました。残念ながら子ども達は参加できませんでしたが、遠藤正之会長さんがJAの方と一緒に榎引ブースを出店し、そこで南小で収穫したりんごも販売してくださいました。南小のりんごは午前中のうちに完売したそうです。これまでの交流のおかげで、コロナで修学旅行の行き来は中断しているものの、横浜の方の榎引への想いはつながっているとのこと。とてもありがたいお話をいただきました。

また、当日榎引ブースのお手伝いをしてくださった斎藤鉄男さんという横浜に在住の方から、連休明けに学校に電話をいただきました。斎藤さんは下山添出身で、神奈川区役所にお勤めの頃、南小と青木小との交流のきっかけ作りをして、それ以来ずっと両校の交流のコーディネートをしてくださっているのだそうです。その斎藤さんから、「コロナが落ち着いたら、ぜひ横浜に来てください。南小の子ども達をみんなで待っていますよ」という温かい言葉をいただき、とても感激しました。

地域の方々をはじめ、遠く離れている横浜の方々とも、りんご学習を通してつながっていることを実感しました。この活動と交流を大事にしていきたいと感じたところです。

校長 岡部 貞二